

研究紀要 第21号

学ぶ意欲「～たい」を引き出す 学習指導の実践的研究

〈3か年継続研究：1年次〉

平成28年3月 留萌管内教育研究所

研究紀要 第21号

学ぶ意欲「～たい」を引き出す 学習指導の実践的研究

〈3か年継続研究：1年次〉

平成28年3月 留萌管内教育研究所

発刊に当たって

平成27年度の留萌管内教育研究所「研究紀要第21号」の発刊に当たり、本研究に対しご支援、ご指導いただきました関係各位に、まずもって厚く感謝とお礼を申し上げます。

当研究所では本年度より、新たに第8次共同研究の3か年継続研究に着手しました。本研究は、前次共同研究「活用力を向上させる学習指導」の成果と課題を踏まえつつ、全国学力・学習状況調査で明らかとなった留萌管内の課題の一つである「学習意欲」を研究対象とし、理論研究を深めるとともに、実践研究を通し、留萌管内の教育に寄与できればと考えているところです。

現在、国レベルでは、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程企画特別部会で示された「論点整理」を土台に、次期学習指導要領改訂に向けて、本格的な議論が行われています。特に、「何を知っているか、何ができるか」はもちろんのこと、「知っていること、できることをどう使うか」という資質・能力を重視した教育課程の在り方についての議論がされ、授業における学習・指導方法の具体的方策の一つとして、いわゆる「アクティブ・ラーニング」が提唱されています。

文言の解釈はいろいろありますが、単純に「能動的な学び」という点では、「学習意欲」についての研究の方向性は、次期学習指導要領でも求められる観点だと考えているところです。児童生徒を「アクティブ・ラーナー」に育てる学習指導はどうあるべきか、そこに少しでも近づく実践的研究となるよう、1年次目の成果と課題を基にさらなる充実を図っていきます。

これまで共同研究推進に当たっては、研究協力校と研究協力員をお願いしてきましたが、管内の学校数が激減した現状に対応すべく、今年度からは、研究協力員4名のみの方の指名とさせていただきます。協力員をお引き受けいただいた先生方、そして、所属校長先生には、ご理解とご協力に感謝申し上げますとともに、次年度からは協力員の先生方に授業公開をしていただくこととなります。学校の業務で何かとお忙しい中、大変ご苦勞をおかけすることとなりますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

留萌管内の研究所として、少しでも現場に還元できるように、共同研究だけでなく、研修講座の充実や広報誌などによる情報発信、さらには3月からホームページもリニューアルをし、これまで以上に現場の期待にこたえられる研究所となるよう、誠意努力しているところです。

終わりになりますが、本研究所の運営に当たり、快く研究員を送り出していただいている所属校長をはじめとする教職員の皆様、そして、管理委員会、運営委員会、留萌教育局、留萌管内各市町村教育委員会、留萌管内校長会並びに教頭会など、関係機関の皆様方に、あらためて深く感謝とお礼を申し上げます。

平成28年3月

留萌管内教育研究所長 **石田正樹**

目 次

「発刊にあたって」

留萌管内教育研究所 石 田 正 樹

I	研究の概要	1
1	研究主題	
2	研究主題設定の理由	
3	研究主題のおさえ	
4	目指す子ども像	
5	研究の計画	
6	研究の構造	
II	本年度の研究	8
	研究の視点について	
III	研究協力員の実践	20
1	「活動への見通しをもたせることで学ぶ意欲へとつなげる」学習指導の実践的研究 ～言語活動と教科指導のつながりを明確にし、活動に見通しをもたせる学習指導の工夫～ 小平町立小平小学校 伊原賢郎 教諭	
IV	成果と課題	28
1	主体的な学びを生む学習活動	
2	思考力・表現力を育成する活動の工夫	

※ 参考文献リスト

あとがき

I 研究の概要



1 研究主題

4 目指す子ども像

2 研究主題設定の理由

5 研究の計画

3 研究主題のおさえ

6 研究の構造

1 研究主題

学ぶ意欲「～たい」を引き出す学習指導の実践的研究

2 研究主題設定の理由

今日的な 学校教育の 課題から

教育基本法の理念に基づいた教育改革が進められる中、平成26年11月に中央教育審議会に対して文部科学大臣より「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の諮問文が出された。これを受けて、平成27年8月には教育課程企画特別会において論点整理が行われ、2030年の社会とその先の社会に生きる子どもに、どのような資質・能力の育成が必要なのか、学習指導要領改訂に向けた本格的な議論がされている。

この改革の特徴の一つとして「コンテンツ・ベースト（内容重視）から、コンピテンシー・ベースト（能力重視）へのパラダイム転換」が挙げられ、国際標準としての育成すべき資質・能力のうち思考力・判断力・表現力等のいわゆる「活用力」の育成は、最重要課題として学校教育に求められるものと考えられる。

これまでの 研究及び 管内の実態 から

本研究所では、これまで7次に及ぶ共同研究に取り組んできた。前次までは、「活用力を向上させる学習指導」についての研究を行い、成果と課題を明らかにしたところである。また、研究を進めるにあたっては、留萌管内の実態に合わせた教育現場で活用できる研究を推進してきた。

現学習指導要領では、学習意欲の向上と併せて学習内容の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を重視している。それと同時に、児童生徒がこれらを支える知的好奇心や探究心をもって主体的に学習に取り組む態度を養うことも重要とされている。

今回新たに研究テーマを設定するにあたり、昨年度までの研究の成果を生かしつつ、平成26年度に実施された全国学力・学習状況調査の留萌管内における質問紙調査の結果を踏まえ、「学習意欲」に視点を当てた実践的研究を推進することが、教育現場でも活用されるものと考えた。

道研連研究 主題との 関わりから

北海道教育研究所連盟（道研連）では、第15次共同研究において研究主題として、「実践的指導力の向上に関わる支援の在り方」を掲げ、平成26年度から3か年計画で継続研究を進めている。

教員の実践的な指導力の向上を図る研修を行うことを中心に進めているが、その研究内容には、「授業改善のための支援」があり、「思考力を育む授業作りの促進」など本研究所の研究とも関わる部分も多いことから、本研究を推進することにより道研連主題解明の一翼を担うことができると考える。

3 研究主題について

平成26年度に実施された全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、留萌管内の状況は下記のような結果となっている。

全国学力・
学習状況調
査の質問紙
調査から

平成26年度 全国学力・学習状況調査の質問紙の結果より(留萌管内)

	小学校質問紙→児童質問紙 (学校が回答) → (児童が回答)	中学校質問紙→生徒質問紙 (学校が回答) → (生徒が回答)
授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を 児童に示す活動を計画的に行った。	80.0 % → 41.0 %	53.8 % → 25.5 %
学習の最後に学習したことを振り返る 活動を計画的に行った。	55.0 % → 38.3 %	38.5 % → 12.5 %

結果を見ると教師が思っているほど児童・生徒は「見通す」活動や「振り返る」活動を意識して行っていないことが分かる。

これらの点を踏まえ、各教科の指導に当たっては、子どもが学習の「見通し」を立て、学習したことを「振り返る」活動を計画的に取り入れることを通して、自主的に学ぶ態度を育み、学習意欲の向上につながると考えた。

見通し・
振り返り

「見通し」を立て、学ぶ内容や課題解決への筋道を示すことで「やってみたい」「考えたい」へ意欲の高まりにつなげていく。実際に解決した時には、解決したことを「話したい」という意欲となり、自力解決できなかった時には、何とか解決するために他の子の意見を「聞きたい」という意欲につなげることができる。その後解決できなかった子は、他の子の考えを聞いた後で「やってみたい」という意欲がわき上がる。そして授業終末の「振り返り」の場面で、自分はその時間で何が分かって何が分からなかったのか再認識することで、次時の学習への「学びたい」という更なる意欲へとつなげることができる。と考える。

学ぶ意欲
「～たい」

「～たい」という学ぶ意欲を高める学習活動を工夫することによって、思考する喜びや楽しさを感じることができ、より主体的に課題解決に取り組む子が育つであろうと考え、今回のテーマを設定した。

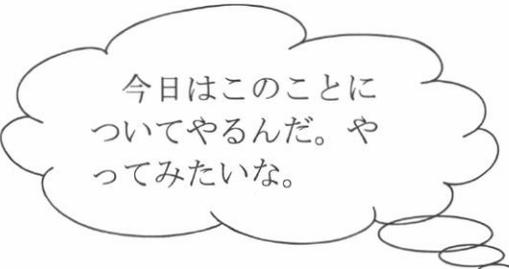
〈参考資料〉

平成27年度 全国学力・学習状況調査の質問紙の結果より(留萌管内)

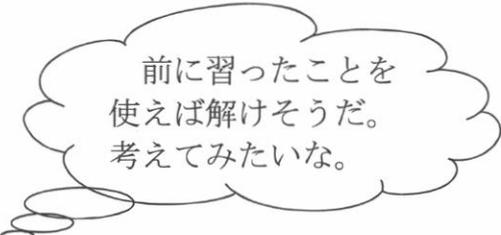
	小学校質問紙→児童質問紙 (学校が回答) → (児童が回答)	中学校質問紙→生徒質問紙 (学校が回答) → (生徒が回答)
授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を 児童に示す活動を計画的に行った。	88.2 % → 52.9 %	66.7 % → 38.8 %
学習の最後に学習したことを振り返る 活動を計画的に行った。	76.5 % → 54.3 %	58.3 % → 15.6 %

4 目指す子ども像

- 主体的に活動する子ども
- 思考したことを効果的に表現できる子ども



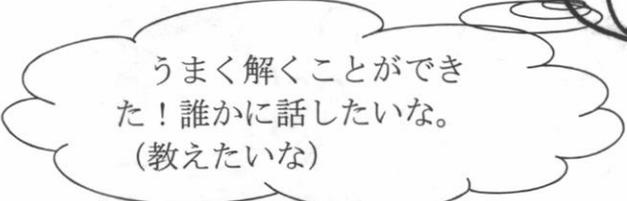
今日はこのことについてやるんだ。やってみりたいな。



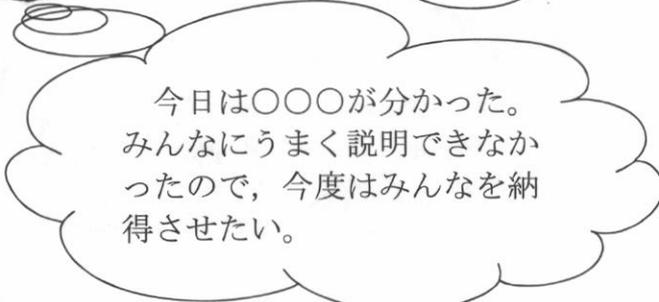
前に習ったことを使えば解けそうだな。考えてみたいな。



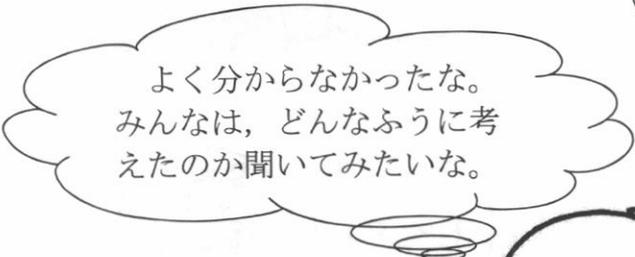
みんなに分かってもらうには、どういうふうの説明したらいいだろう？



うまく解くことができた！誰かに話したいな。(教えたいな)



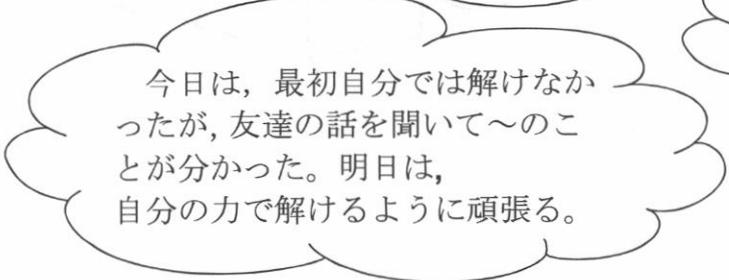
今日は〇〇〇が分かった。みんなにうまく説明できなかったのだから、今度はみんなを納得させたい。



よく分からなかったな。みんなは、どんなふうにかえたのか聞いてみたいな。



話を聞いたら、分かった気がする。別な問題を解いてみたいな。



今日は、最初自分では解けなかったが、友達の話聞いて～のことが分かった。明日は、自分の力で解けるように頑張る。

5 研究の計画

(1) 研究期間

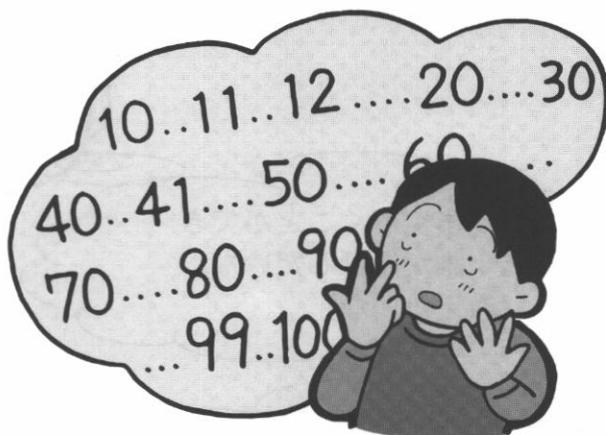
平成27年度から平成29年度までの3か年継続研究

(2) 研究領域

国語科，社会科，算数・数学科，理科

(3) 研究の方法

- ① 研究員会議や研究協力員との合同研究会議，道研連との共同研究などを通して，研究内容の検討や交流を行う。
- ② 研究協力員による授業実践を通して，研究内容についての検証を進める。
- ③ 研究のまとめとして，各年度末には研究紀要を発刊する。



平成27年度（1年次）

視点1 主体的な学びを生む学習活動

- ① 学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫
(やってみたい) (考えたい)
- ② 学びの過程や結果を振り返り、次の学びへとつなげる活動の設定と指導のあり方
(学びたい)

視点2 思考力・表現力を育成する活動の工夫

- ① 学びをつなぎ、筋道を立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫
(話したい) (聞きたい)
- ② 解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫
(聞きたい) (やってみたい)

平成28年度（2年次）

仮説・視点の見直し
改善された仮説・視点を基に研究実践

平成29年度（3年次）

仮説・視点の見直し
改善された仮説・視点を基に研究実践, 評価

学ぶ意欲「～たい」を引き出す学習指導

(5) 今年度の計画

	共 同 研 究	道 研 連 共 同 研 究
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画立案 ・研究協力員の確認と決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・道研連定期総会
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研究会議に向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究推進委員会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究に関する理論研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究推進委員会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回合同研究員会議（今年度の研究の推進） ・今年度の研究に関する理論研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道教育研究所連盟 夏季研究所員研修会 【7月30日～31日】
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究に関する理論研究 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究に関する理論研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・第70回北海道教育研究所 連盟研究発表大会 （渡島大会） 【9月3日～4日】
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究に関する理論研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究推進委員会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回提案授業 小平小学校 ・提案授業の成果と課題の検討 ・第2回合同研究員会議 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究に関する理論研究 ・研究紀要編集作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究推進委員会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究の成果と課題について ・研究紀要編集作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究推進委員会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回提案授業 増毛小学校 ・研究紀要編集と校正 ・留萌教育局との合同研修会 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要21号発刊 	

6 研究の構造

研究主題

学ぶ意欲「～たい」を引き出す学習指導の実践的研究

目指す子ども像

- 主体的に活動する子ども
- 思考したことを効果的に表現できる子ども

仮説

学習活動に見通しをもたせ、メタ認知的振り返りを行う。また、伝える相手を意識させた表現する場を学習過程の中に位置付けて指導していくことで、子どもたちは、主体的に活動し、表現力を向上させることができる。

視点1

主体的な学びを生む学習活動

- ①学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫（やってみたい）（考えたい）
- ②学びの過程や結果を振り返り、次の学びへとつなげる活動の設定と指導のあり方（学びたい）

見通し

振り返り

視点2

思考力・表現力を育成する活動の工夫

- ①学びをつなぎ、筋道を立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫（話したい）（聞きたい）
- ②解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫（聞きたい）（やってみたい）

伝える相手を意識した表現

主体的に活動する子ども

Ⅱ 本年度の研究



視点について

教育基本法第六条第二項
 「自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視」
 学校教育法第三十条第二項
 「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」

主体的に学習に取り組む態度

知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力等の育成

今回の改訂では、教育基本法第六条第二項及び学校教育法第三十条第二項を踏まえ児童の学習意欲の向上を重視している。指導に当たって、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、自主的に学ぶ態度をはぐくむことは、学習意欲の向上に資することから、今回特に規定を新たに追加したものである。

学習指導要領解説 総則編 第3章4

各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。

学習指導要領解説 第1章第4の2(1)

視点1
 主体的な学びを生む学習活動

視点2
 思考力・表現力を育成する活動の工夫

↑
見通し

↑
振り返り

キーワード

↑
交流

視点1 主体的な学びを生む学習活動

① 学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫 (やってみたい) (考えたい)

前述の学習指導要領の総則に「見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視」が、教育課程実施上の配慮事項として新たに追加されたことを考えて、各教科の指導に当たって、見通す活動を取り入れることは、自主的に学ぶ態度を育み、学習意欲の向上につながるものと考えられる。

しかし、いわゆる見通すという活動が、それぞれの教科において同じ意味合いをもつものなのか、研究を進めていくうちに壁が立ち上がった。

そこで、本研究において研究領域である国語科、社会科、算数・数学科、理科それぞれにおいて見通す活動とはどういうものなのかということから研究を進めた。

国語科における見通し

学習指導要領の国語科「C 読むこと」の領域では、第1学年及び第2学年に「カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」が記述され、第3学年及び第4学年では、「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」が記述されている。このことを合わせて考えると、文部科学省教科調査官の水戸部修治氏は、「どの本を選んで読むかを子ども自身が判断したり、移り変わりや変化を手がかりにどの叙述に着目して読むかを自ら考えたりすることなどが求められる。国語において見通しを立てる学習活動では、単に教材文を与えて無目的に通読させたり、教師の指定した本時の学習場面を確認したりするだけでは十分とはいえない。」(初等教育資料 2014年4月号)と述べている。

そこで、本研究では、国語科の見通す活動を下記の2つに絞って考えた。

1 単元を通じた見通し

- ・単元を貫く言語活動全体の見通しをもたせる。

例) 教師自作の最終目標作品の提示

⇒言語活動を通して身に付けるべき能力を見通す。

2 単位時間での見通し

- ・各単位時間と単元を貫く言語活動の結び付きを見通す。

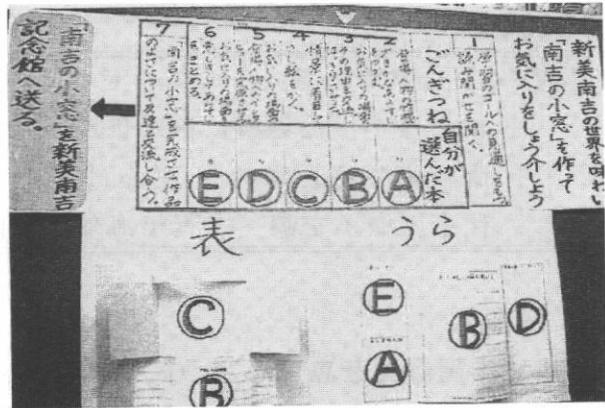
例) 学習計画表の作成・工夫

⇒単位時間の活動に理由付けを行う。(なぜ気持ちの変化を読み取るのか。)

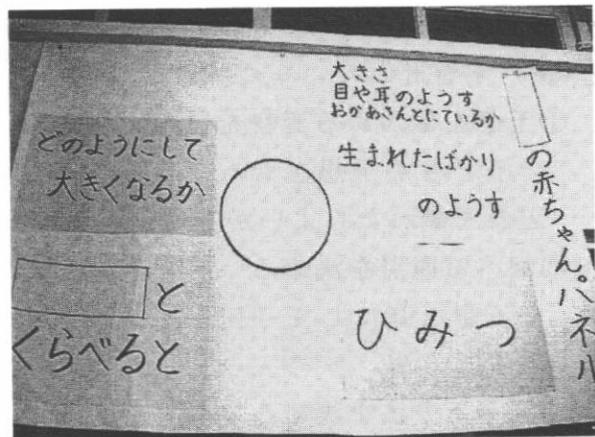
教師自作の言語活動の作品



言語活動ができるまでの学習計画表



学習計画表



(初等教育資料 2014年4月号)

社会科における見通し

小学校社会科では、習得した知識や技能を活用して学習問題を追究・解決する問題解決的な学習の一層の充実を目指している。その社会科における見通す活動について文部科学省教科調査官の澤井陽介氏は、「国立教育政策研究所が評価規準の基本形例として示した記述内容から、見通す学習活動とは、社会事象に関心をもって学習問題をつかみ、予想や学習計画を立てる学習活動である。」と述べている。また、中学校の評価規準基本形例では、「社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、課題を見だし、社会的事象の意義や特色相互の関連を多目的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。」(初等教育資料 2014年4月号)と書かれている。

そこで、本研究では、単元(小単元)や授業展開における「導入」場面における指導を社会科における見通す活動として考えた。

1 学習問題(課題)をつかむようにする指導(見通し)

大人の社会事象に子どもの関心を向けさせるために具体的な事実を絞り込み、疑問が生まれるようにして、学習課題の設定につなげる工夫。

(例)・人口が増えているのになぜゴミの量が減っているのか。

- ・田がなかった場所に田が広がったのはなぜか。
- ・青年海外協力隊の A さんは、アフリカで農業を教えている。A さんの仕事の様子を調べて青年海外協力隊のはたらきを考えよう。

2 予想や学習計画を立てるようにする指導(見通し)

学習計画は、学習問題に即して調べて予想を確かめる計画

(例) 学習計画のいくつかのパターン

① 予想を確かめる資料を選ぶ

子どもが予想をもったら、教師が資料をいくつか提示して、その中からどれを調べたらよいかを選ばせるようにする方法

② 調べる観点を決める

予想を基にして「何を」調べたらよいかを決めて「自分が調べる観点」とする方法

③ 調べる方法を決める

予想を基にして「どのように」調べたらよいかを決めて、「自分が調べる方法」とする方法

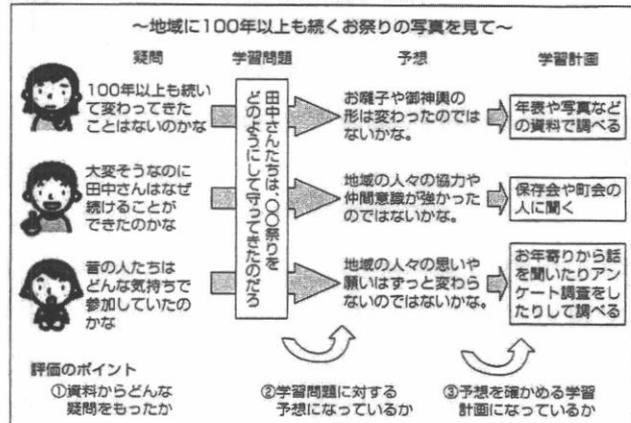
④ 調べる順番を決める

観点を出し合って、学級のみんなでどのような順番で調べていくか「調べる順番」を決める方法

⑤ 学習のまとめ方を決める

調べたことをどのように作品などにまとめるかを話し合っ、そのための情報収集を学級のみんなで分担する方法

資料2 子供の疑問と予想と学習計画の関係



初等教育 2014 年 4 月号

算数・数学科における見通し

算数科の目標は、小学校学習指導要領解説算数科において「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」また、中学校学習指導要領解説数学科においては「数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。」と示されている。

そこで、本研究では、算数科の見通す活動を下記の2つとした。

1 解決の結果の見通し

(例) $0.75 + 0.9$ たし算をしているので答は 0.9 より大きくなるという見通し
誤答である 0.84 に気付き、なぜ間違えたのかを考える。

2 解決の方法の見通し

質問紙の結果を受け、目標となる課題をより意識させるために、解決の方法の見通しは、児童とのやりとりの中で見付け、課題の一部として提示されていくのが望ましい。

(例①) $\frac{4}{5} + \frac{3}{5}$ の問題に出会ったとき、子ども達はそれまでの分数についての学習で使われた液量図(マス図)やテープ図に表して考えようとする。この図に表した方がいいのではないかというのが方法の見通しとなる。

(例②) 「三角形や四角形の面積を求める場合「長方形や平行四辺形など、既習の面積が求められる形に変形したらよいのではないか」と考える。そのために「もう一つ同じ形をもってきて組み合わせたらよいのではないか。」「切って移動したらよいのではないか。」ということが方法の見通しとなる。

理科における見通し

小学校学習指導要領理科の目標では、「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。」と記されている。また、中学校の理科の目標では、「自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。」と記されている。

文部科学省教科調査官の村山哲哉氏は、「見通しをもつことにより、予想や仮説、観察、実験の結果の一致、不一致が明確になる。両者が一致した場合には、子どもは予想や仮説を確認したことになる。一方両者が一致しない場合には、子どもは予想や仮説を振り返り、それらを見直し、再検討を加えることになる。いずれの場合でも、予想や仮説の妥当性を検討したという意味において意義があり、価値があるものである。各学習において、内容の見通しや結果の見通し、方法の見通し等を適切に行っていくことで子ども達の主体的な学びを促すと考える。」(初等教育資料 2014年4月号)と述べている。

そこで、本研究では、理科における見通しを子どもが見いだした問題に対して、予想・仮説を立てる段階を見通す活動と考えた。

(例①) 「植物の発芽」の学習で植物の発芽に必要な条件を既習の知識や生活経験から予想し仮説を立てる。(植物の発芽に日光が必要であるならば、箱をかぶせた種は発芽しないだろう。)

(例②) 「振り子の運動」の学習においては、振り子が一往復する時間に関する条件を調べる際に、子どもが想定する要因として、おもりの重さ、糸の長さ、振れ幅が考えられ(予想)、仮説を立て、実験をする。振り子が一往復する時間におもりの重さが関係しているならば、重さを変えることにより一往復する時間は、変化するだろう。(重かったら遅くなり、軽かったら速くなる。)

② 学びの過程や結果を振り返り，次の学びへとつなげる活動の設定と指導のあり方（学びたい）

兵庫教育大学大学院教授の佐藤真氏は，振り返りの重要性について「振り返りとは，子どもの学びの評価だということである。学習者である子ども自身が，自己の学びにいかなる意味を見いだしているのかを状況把握し確認することである。一単位時間や単元に，子ども自身が自分なりに学んでよかった，意味ある充実した学びであった，無駄な時間ではなかったという，学びの豊かさを実感したり価値を納得したりすることが重要なのである。認知面でも情意面でも振り返るからこそ，思考力・判断力・表現力を育むことと子どもの主体性を育んだり学習意欲を高めたりすることの双方に資するものとなっているのである。」（初等教育資料 2014年4月号）と述べている。

振り返りを行うことにより子ども自身が自らの理解状態を把握した中で，次の学習へと進むことができる。そのため主体的な活動へとつながると同時に，子どもの理解状態を教師が把握し適切に関わっていくことで，子どもが学びを実感することができると思う。

そこで，1時間の授業の中で，「どのようなことがわかったのか」「どんなことがわからなかったのか」「どこまでがわかったか」「誰の話聞いてわかったか」など自分の理解状態を診断する意識をもって記述することを，振り返りとおさえる。

【視点1 見通しと振り返りにおける子どもの思考】



視点2 思考力・表現力を育成する活動の工夫

① 学びをつなぎ，筋道立てて考え，根拠や理由を示して伝える活動の工夫（話したい）（聞きたい）

思考力・判断力・表現力の育成について横浜国立大学教授の高木展郎氏は、「考える力や学ぶ意欲を育成する場面において、子ども一人一人が、教室の他者と関わりながら、自己相対化を通して個の学力を育成していくことが求められている。クラスという社会（コミュニティ）の中で「学び合う」ことが、知識・技能のみを習得するという学びから、「学び合い」を通して、一人一人の子どもの思考力・判断力・表現力を育てる学びへと転換することを可能にする。」（初等教育資料 2014年5月号）と述べている。

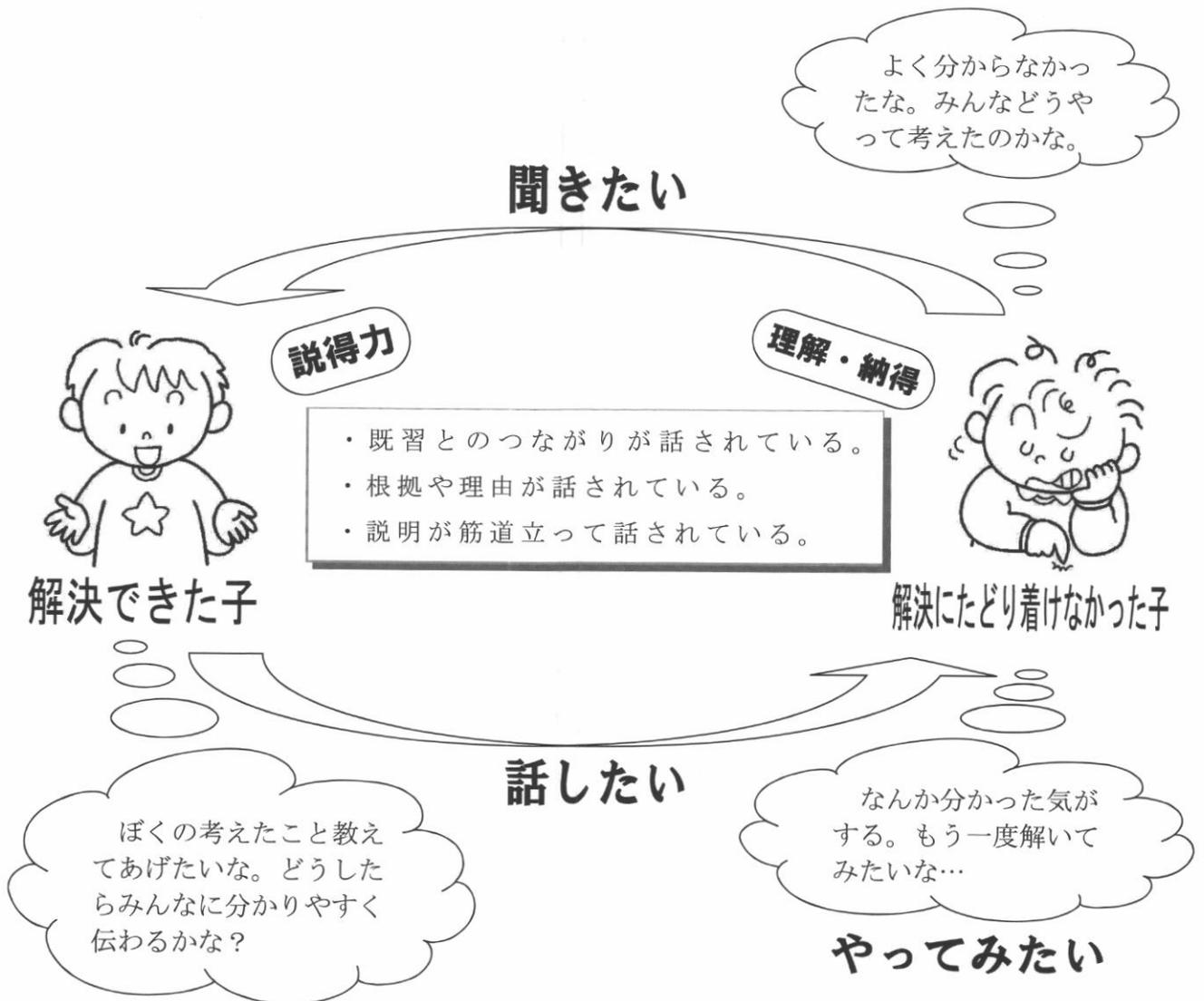
そこで、本研究では、視点の2の①として「伝える」という相手意識をもった表現力の育成を設定した。表現することは、文章として書くことにこだわらず、聞く相手を納得させる表現方法の工夫と考え研究を進めていく。

② 解決のきっかけをつかみ，考えを深めるための交流の工夫（聞きたい）（やってみたい）

問題に取り組み、自力解決していく中で、その時間内に「解決できた子」「解決までたどり着けなかった子」が存在してくる。

そこで、視点の2の②として、学び合いという交流の場を「解決できた子」にとっては、自分の考えを広げる場として捉え、「解決できなかった子」にとっては、解決に結び付ける場として考え、別な問題（類似問題）に挑戦したいという意識の高まりを目指す活動と捉え、研究を進めていく。

【視点2 交流の場における子どもの思考】



【視点と学習の流れ】

単元で



視点1① 単元を通した見直し

これからこんなことを勉強していくんだ。

やってみたい・考えたい

一単位時間の中で

・問題との出会い



重点

視点1① 見直し

思考(考えたい)

解決

- 解けた！
- 誰かに聞いてもらいたいな

伝える意識(話したい)

どうしたらみんなに分かりやすく伝わるかな？

聞く意識(聞きたい)



交流

重点

視点2① 表現の工夫

伝える情報の整理や伝える方法の選択（相手を納得させる表現を意識）

図をかいたら分かりやすいかな？それから、グラフと図と言葉で説明すればいいかな？

ここまでできたけど、後はどうしたらいいだろう。

よく分からなかったな。みんなどうやって考えたのかな。

視点2② 交流の工夫

重点

解決できなかった子に対して理解を促す交流の形態や進め方を工夫する。



なんか分かった気がする。もう一度解いてみたいな・・・

やってみたい



できた～！

授業
終業
の
で

今日は〇〇君の話を聞いて、商が10の位から立つことが分かった。

重点

視点1② 振り返り

学びたい

今日は前の時間のやり方で同じようにやったら解けた。わる数が100の位からあっても解けそうな感じがする。

「振り返り」の必要性に関わる参考資料

メタ認知の「メタ」とは「高次の」という意味である。つまり、認知(知覚, 記憶, 学習, 言語, 思考など)することを, より高い視点から認知するということがある。メタ認知は, 何かを実行している自分に頭の中で働く「もう一人の自分」と言われたり, 認知についての認知と言われたりするところがある。

メタ認知には, つぎの2つのはたらきがある。

1. メタ認知的知識

認知作用の状態を判断するために蓄えられた課題, 自己, 方略についての知識

例) 「何回もやったり, 先生の話をよく聞いたりしていたらよく分かって簡単になりました。」という文章を子どもが書いたとすると「分からないときは何度もやればよい。」「分からないときは, 先生の話をよく聞けばよい。」という自分の認知に関する知識。

2. メタ認知的技能

メタ認知的知識に照らして認知作用を直接的に調整するモニター, 自己評価, コントロールの技能

例) 分からない問題に直面したとき子どもの頭の中では, 「この問題は分かるか。」と自分に問いかけているかもしれない。この様子を監視しているモニターカメラのようなので「モニター」という。するとこの問いかけに対して「よく分からない。」という判断がなされる。(これを自己評価と呼ぶ。) このときに「分からない時は, 先生の話をよく聞けばよい。」というメタ認知が参照される。その結果, 「先生の話进行聞こう。」と自分の行動に働きかけるコントロールとなり, 実際に先生の話に耳を傾ける行動をとる, と考えることができる。このとき, 「モニター」「自己評価」「コントロール」のようなメタ認知のはたらきを「メタ認知的技能」という。

子どもの学力向上は, 子ども自身によるメタ認知(メタ認知的知識)の変容によって可能になる。また, その変容の中で適切に教師が関わっていくことによって子ども達の主体的な活動をうながす。

(「算数の授業で『メタ認知』を育てよう」 重松敬一)

(「メタ認知の概要」 奈良教育大学ホームページ)

Ⅲ 研究協力員の実践



1 「活動への見通しをもたせることで学ぶ意欲へとつなげる」

学習指導の実践的研究

～言語活動と教科指導のつながりを明確にし、活動に見通しをもたせる学習指導の工夫～

小平町立小平小学校 伊原賢郎 教諭

「活動への見通しをもたせることで学ぶ意欲へとつなげる」

学習指導の実践的研究

～言語活動と教科指導のつながりを明確にし、活動に見通しをもたせる学習指導の工夫～

(小学4年 国語科 単元名「テーマを決めて、本をしょうかいしよう」 全14時間)

小平町立小平小学校 伊原 賢郎

1 はじめに

(1) 単元について

子どもたちは、3年生までに様々な物語文を教材として、登場人物の心情や場面について考えたり、自分たちの考えを交流したりする活動を行っている。また、4年生では、『白いぼうし』や『一つの花』で情景描写から心情を読み取る活動を行っている。

本単元では、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことや文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと」の指導事項を『ごんぎつね』や並行読書の活動を通して達成させる。

この作品は、すぐれた情景描写や人物の心情の変化などが的確に表現されており、日本児童文学の名作として定評がある。4年生という発達段階にもふさわしく、叙述をもとに登場人物の性格や気持ちの変化、情景などの想像したことを他者と交流することによって、互いの感じ方の違いに気付かせる学習を展開するには格好の教材である。また、学習に新見南吉作品の並行読書を取り入れることでごんぎつねの作品の読みの深化を促し、子どもの読解力を向上・定着させるのに有効と考える。

2 研究の視点

(1) 主体的な学びを生む学習活動

『新見南吉作品を、ポップでしょうかいしよう』を単元を貫く言語活動として設定した。紹介ポップの利点としては、ポップのタイトルや紹介文を考えさせることで、登場人物の相互関係や心情、情景などを通して表現されていることを想像を広げながら読み深めることができることにある。また、図書コーナーや廊下に掲示するなど、相手意識・目的意識をはっきりさせる。そうすることで、友達に自分のポップを紹介しようと意欲を高めるとともに単元に見通しをもつことで『やってみたい』『考えたい』という気持ちにつなげていく。また、最初に単元全体の流れを指導し、掲示として残しておくことで1単位時間の活動の見通しをもたせることにつなげることができると思う。

学習の最後に振り返りを行うことで、子ども自身が自らの理解を深めるとともに友達の感じた作品への思いや登場人物の心情、情景描写を読んで感じたことを共感することができる。そのことで、自分の感じたことをよりよく表現したり、次時の学習への意欲『学びたい』という気持ちにつなげたりしていく。また、教師が振り返りを確認することで一人一人の学習状況やつまづいている子の把握、支援への手がかりとしていく。

(2) 思考力・表現力を育成する活動の工夫

登場人物の心情や様子の変化が分かりやすい場面を児童につかませながら学習を進めることで、文章の言葉を根拠としてポップに書くことができるようにする。自分の考えの根拠となる文や理由を明確にすることで自信につなげ『話したい』という気持ちや、他の児童との違いや同様の考えをしているかどうかを確認することで『聞きたい』という気持ちにつなげていく。

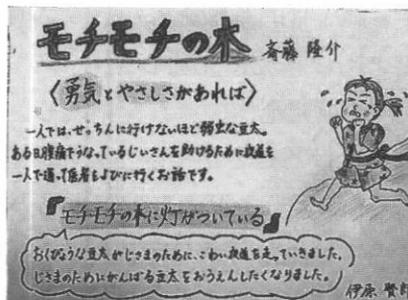
登場人物の心情や様子について、文章中の言葉を根拠として見付けるだけで終わるのではなく、その文章から子どもが感じたことを自身の言葉で表現させる。さらに、感じたことをグループで話し合う活動を学習に位置付ける。相手に分かりやすく自分の思いを伝えること、視点をもたせて交流を進めることでグループでの話し合いに意味合いをもたせ、話し合い活動を活発にしていく。そのことで、自分では書けなかった子は話し合いでの内容を参考に書くことができたり、自分の思いを伝えた子も表現の良さやお互いの考えたことを話し合わせたりすることで表現力を高め、もっと『聞きたい』『やってみよう』という気持ちや聞く意識の高まりにもつなげていく。

3 単元の目標

- ・ 場面の移り変わりに注意し、登場人物の性格や気持ちの変化を想像して読み、ポップで紹介することができる。【読むこと】
- ・ 新見南吉作品を読み、お気に入りの作品のポップを作って紹介しようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・ 言葉には、考えたことや思ったことを表すはたらきがあることに気付いている。【言語事項】

4 指導計画

	時数	○主な学習活動 ◎教師の働きかけ ・児童の活動	評価規準と視点
つ か む 2 時 間	①	<p>○全文の通読</p> <p>○言葉の意味調べ、段落分け</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>新見南吉作品を読んで、お気に入りの作品をポップで紹介しよう。</p> </div> <p>◎担任の作った他の作品のポップを紹介しながら、ポップについて考えさせる。</p> <p>○紹介ポップに必要な内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名や作者名がある。 ・ 印象的な場面の絵がある。 ・ あらすじが書かれている。 ・ 小見出し（副題）がある。 ・ 大事な言葉が書かれている。 ・ 自分の気持ちが書いてある。 <p>○単元の学習計画を立てる。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>視点(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やってみたい ・ 考えてみたい </div> <p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新見南吉作品を読んで、ポップを作って紹介しようという思いを膨らませている。(発言、ノート) <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>視点(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びたい </div>



時数	○主な学習活動 ◎教師の働きかけ ・児童の活動	評価規準と視点
	<p>②</p> <p>たくさんの新見南吉作品からお気に入りの物語を見付けよう。</p> <p>◎新見南吉作品の紹介 ○新見南吉作品の中から好きな物語を読む。</p>	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> お気に入りの作品を見付けるために、本を選んで読んでいる。
追究する 8時間	<p>③</p> <p>「ごんぎつね」を読んでポップに書くあらすじを考えよう。</p> <p>○登場人物の言動に注意して、あらすじをまとめる。 ・いたずら好きの小ぎつねごんが、自分のしたいいたずらを後悔してつぐないをするが、最後は兵十に撃たれてしまうお話です。</p>	<p>視点(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> やってみたい 考えてみたい <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の話を中心にあらすじを書いている。(ワークシート)
	<p>④ ・ ⑤</p> <p>登場人物の気持ちを中心に一番心に残った場面を見付けよう。</p> <p>○あらすじをもとに、場面ごとのごんや兵十の気持ちやその変化について考える。 ○ポップにかきたい登場人物の気持ちの変化を考える。 ◎大きく気持ちが変わった場面に注目させる。 ・ごんがいたずらをして楽しんでいる。 ・ごんがいたずらをしたことを後悔している。 ・ごんは、つぐないをしてよいことをしたと思っている。 ・兵十がごんのしてくれたことに気付いた。</p>	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> 心に残った場面を見付け、その理由を書いている。(ノート) <p>視点(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 話したい 聞きたい
本時	<p>⑥</p> <p>場面をしょうかいする文を考えよう。</p> <p>○紹介する場面を知る。 ・ごんが穴の中で考え込んでいる場面 ・ごんがいわしを届ける場面 ・ごんが撃たれた場面 ○場面を紹介する文章を選んだ理由を交流して、ノートにまとめる。 ・わたしは、ごんが最後にうなずいた場面が心に残りました。きっと、ごんは兵十に気付いてくれたことがうれしいと思います。</p>	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面での人物の気持ちや様子が伝わる文章を見付け、表現している。(ワークシート) <p>視点(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 話したい 聞きたい やってみたい

	時数	○主な学習活動 ◎教師の働きかけ ・児童の活動	評価規準と視点		
追究する	⑦	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">お気に入りの新見南吉作品から、心に残った登場人物の気持ちの変化や心に残った場面を中心に、あらすじと感想をまとめよう。</div> ○ごんぎつねのまとめを参考にあらすじと感想をまとめる。 ◎今までの学習を振り返りながら取り組ませる。 ・心に残った場面は、～です。 ・登場人物の気持ちは、～から～に変わっているな。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">並行読書</div> 【読む】 ・心に残った登場人物の気持ちの変化や好きな場面を見付けている。(ワークシート) ・あらすじや心に残った登場人物の気持ちの変化や様子について書いている。(ノート)		
	⑧			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ポップで本を紹介するために副題をつけよう。</div> ○一番心に残った言葉を見付けて、自分の感動が伝わるような言葉で副題を考える。 ◎紹介する場面から、セリフや様子が伝わる言葉から見付けさせる。(自分で言葉を考えてもよい) ・「ごん、おまえだったのか。」 ・「ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。」 ・「命とひきかえに」 ・「気づかなかったこと」	【読む】 ・一番心に残った言葉を見付け、その理由を書いたり、副題を付けたりしている。(ワークシート)
	⑨				
⑩	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">お気に入りの新見南吉の作品のポップを作ろう。</div> ○今までまとめたあらすじと感想をもとに、お気に入りの作品のポップを作る。 ・「ごんぎつね」で作ったポップと同じように作ればいいかな。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">視点(2) ・話したい ・聞きたい</div> 【関・意・態】 ・ごんぎつねのポップ作りを参考にお気に入りの作品のポップを作っている。(活動の様子)			
まとめ			⑪	⑫	⑬

時数	○主な学習活動 ◎教師の働きかけ ・児童の活動	評価規準と視点
4時間	<p>⑭</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">お気に入りの新見南吉の作品のポップを作ろう。</div> <p>○新見南吉作品を紹介し合い、友達の表現を知る。 ・同じ作品を選んだ友達でも、紹介の仕方は違うな。 ・友達の紹介を聞いて、もっと読んでみたくなった。</p>	<p>【言語】</p> <p>・友達のポップの良い点と改善点について気づき、アドバイスしている。 (付箋, 発言)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 視点(1) ・学びたい </div>

5 本時の実際

(1) 本時の目標

- ◎場面での人物の気持ちや様子が伝わる文章を見付け、表現している。【読むこと】
- ・自分の感じたことを書き、意見交流している。【関心・意欲・態度】

(2) 本時の展開 (6/14)

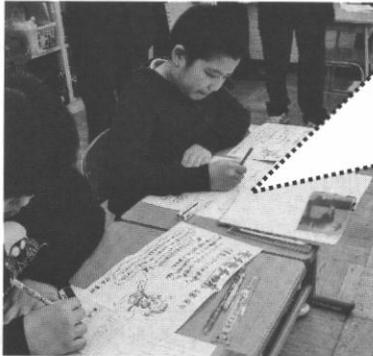
段階	主な学習活動 (◎教師の働きかけ ・児童の活動)	【評価規準】と視点 ○支援
導入	<p>○前時の振り返り</p> <p>◎前時までの人物の心情の移り変わりを確認した。</p> <p>◎物語の中で人物の心情が大きく変わった場面について想起させた。</p>	<p>視点(1)</p> <p>【主体的な学びを生む学習活動】 今までの学習を振り返って、人物の心情の変化を紹介する必要を確認。</p> <p>○ポップの掲示物やワークシートから活動内容を推測させた。</p> <p>○根拠となる文を見付けようとする意欲を高めることができるように、興味のある場面を選ばせた。</p>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">場面をしょうかいする文を考えよう。</div> <p>○学習の進め方について確認した。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>学習の進め方を確認しよう。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に場面を紹介する文を探す。 ・根拠になる文を使って、理由を書く。 ・一番心に残ったことを紹介する文章を書く。 </div> <p>○紹介する場面を確認し、班ごとに分担した。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・穴の中で考え込んでいる場面 ・いわしを届ける場面 ・ごんが撃たれた場面 </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div>	

○場面を紹介する文章を見つけた。

・気持ちが分かるから、ここにしようかな。



○場面を紹介する文章を選んだ理由や人物の気持ち、様子を自分の言葉で考え、ワークシートに書いた。



・いたずらしたことを後悔して、一生懸命につぐないをしているごんがすごい。
・ごんは、つぐないをしていたのに、兵十に撃たれてしまってかわいそう。

◎交流のポイント、グループの発表者の決め方を伝えた。

- ・自分の意見が書かれているか。根拠となる文を書いているか。
- ・交流の文章を読んで、意見や根拠となる文が分かりやすく書いてあるか。

○自分の紹介文をグループで交流した。

・私とは違うところを選んでいるけど、その文は気持ちが分かるから、いいね。



○交流したことを生かして自分の紹介文を直した。

○根拠が見つけられない児童には、登場人物の気持ちを振り返らせた。

【読むこと】

- ・登場人物の気持ちに変化している場面から、自分の感じたことの根拠となる文章を読み取ることができる。(ワークシート)

視点(2)

【思考力・表現力を育成する活動の工夫】

自分の考えの根拠となる文章を見付けることで自分の紹介文に自信をもたせる。

【関・意・態】

- ・根拠となる文章や自分の感じたことなどが書かれているか、意見交流をすることができる。(交流)

まとめ

○グループ毎に表現の工夫が見られたり、根拠となる文から感じたことを書いていたりしている紹介文を代表として全体で交流した。

【読むこと】

- ・人物の気持ちや様子が伝わる文章を使って、自分の感じたことを表現している。

○今日の学習の振り返りをした。

ふり返り 偉大君が誰が書いたのかを書いていなさと言った
が書いてみて少しながくな。たけどとてもいい文章になた。
次の学習ではグループで話し合う時はもと友達にアドバイ
スなどを言っておきたいです。

ふり返り 最初の戸名直し用もあまり思いつかなかた
のでなかなか書く事が出来ませんでした。
翠さんの「人ほらで悲しいのかんは、ているなどが」と死いと思
いました。

ふり返り 翠ちゃんが理由となる文を書いている
さんこうにしたいと思った。次の学習では富田君や
大事な言葉をしっかり見つけ、勉強したい。

ふり返り 先生が気持ちがいってないよと教
えてくれた事で言葉が「かんたんにおかしく、ち
んと気持ちのいって文になった。

視点(1)
【主体的な学びを生む学習活動】
本時の学習で分かった
こと、参考になったこと
などを振り返らせる。

◎今日の学習したことや参考になったこと、次時へ生かしたいこ
とを振り返るよう確認した。

○本時をもとに完成した「ごんぎつね」のポップ

「ごんぎつね」ワークシート ②

場面をしようかいたする文を考えよう。

共すのお母さんのそしきをごんが見て反省を
しました。反省するごんを見えらいたいと思いま
した。

直し用
ごんは、ある日共すのお母のおそしきを見
て、うがきのいたすを反省しました。きちんと
反省することができえらいたいと思います。

ふり返りしうか文をどのよに書くかしかり
分かった。やあちゃんの、二「場面」のしう会が
分るようになった。

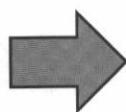
※人物の気持ちや様子が出
る場面を見つけよう。

※人物の気持ちや様子が出て
いるか。

※ごんや共すの登場人物で誰
の心づきを書いているか。

※場面描写のしうかいたす文を
読んで、感じや想像する
場面を、ごんや共すの
気持ちや様子を書き添えて
書いてみよう。

※場面や登場人物の気持ちを
考えて分かったこと、次の学
習で共すの気持ちにどう
かかると書こう。



ごんぎつね 新美南吉

「ごんが二人の心の末にはうがき」

いたすうがきのさつねのごんが小川まで出かけるよと、兵
すかうがきを取、ていました。ごんはうがきでいた
すは分るていたけれど、そのうがきは...

「ごんはまた、たのかりつくりをいたすのよ」

兵すは足をしはせ、近よて今、アロを出ようとするごんを
ドンとつちました。ごんはいりませもしていたのに、かんちかとい
れてかもしえうてま。

6 成果と課題

(1) 主体的な学びを生む学習活動の工夫

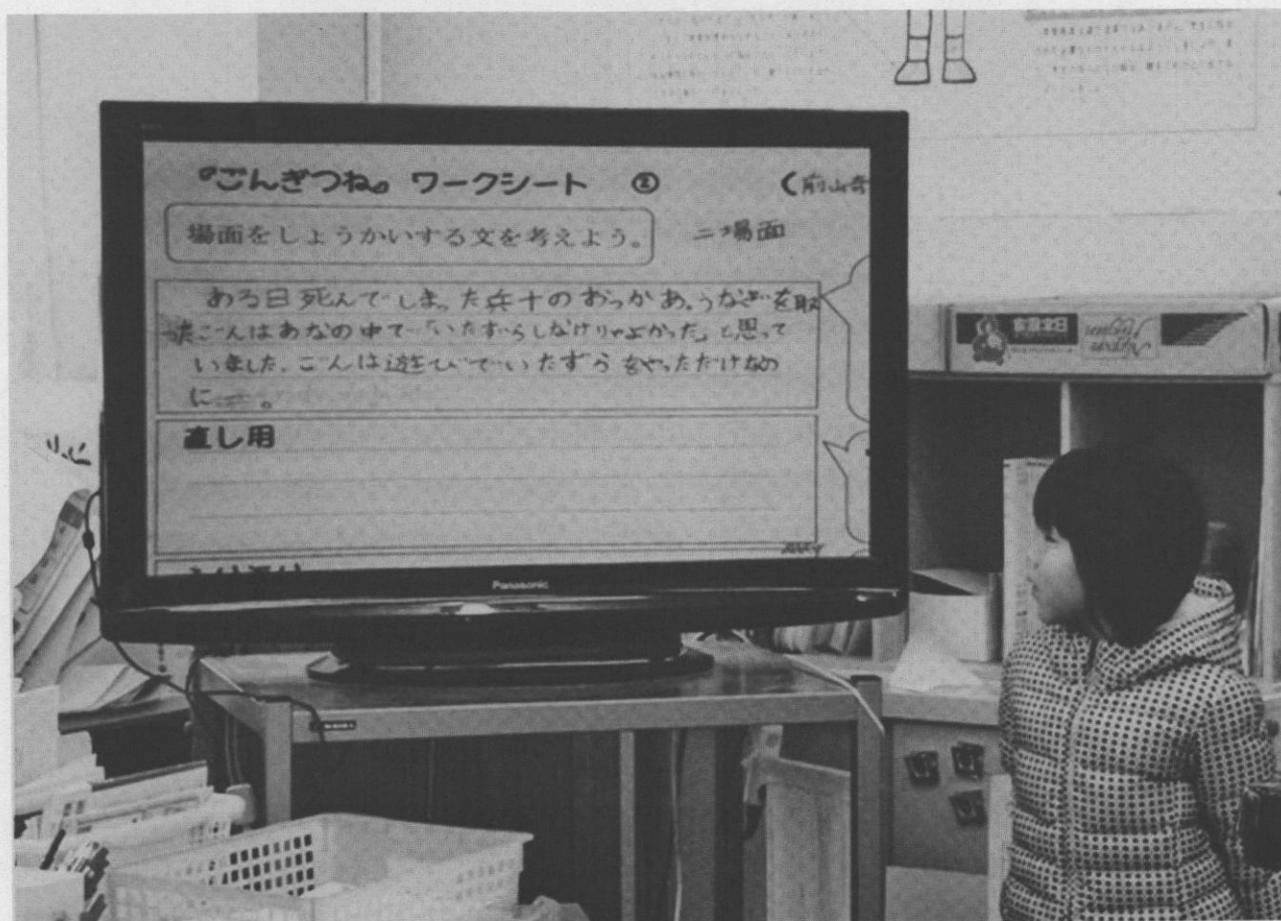
[成果]

- ・単元を貫く言語活動として、「新見南吉の作品のポップを作る」という活動の見通しや目的意識をもたせて取り組ませることにより、意欲的に学習に取り組む様子が見られた。
- ・単元を通し、学習の振り返りを繰り返すことで、友達のかえのよさに気付くようになり、次時への意欲へとつながった。
- ・振り返りを通して、教師が児童のつまずきや変容を把握することで個への支援をきめ細かく行うことができた。

[課題]

- ・単元全体での見通しは良いが、主体的な学びを生むために教師側としての発問や手立てがもう少し必要であった。
- ・今日の学習に対して、「自分はどうだったのか、だから次はこうしたい。」というような振り返りとならなければ、次の学びへの意欲へとつながりにくい。
- ・次に頑張りたいことを、導入場面で提示することで意欲をつなぐことができると思われる。

IV 成果と課題



1 主体的な学びを生む学習活動

2 思考力・表現力を育成する活動の工夫

研究の成果と課題について

今年度は、新たな研究テーマ「学ぶ意欲『～たい』を引き出す学習指導の実践的研究」のもと、研究を進め提案授業を1本行った。

視点1「主体的な学びを生む学習活動」では、活動の見通しのもたせ方やメタ認知による自己評価に重点をおいて取り組んだ。視点2「思考力・表現力を育成する活動の工夫」では、相手意識を考えた表現に重点をおいて取り組んだ。

各視点の成果と課題については、以下のように明らかにすることができた。

視点1

主体的な学びを生む学習活動

成果

- ・今回の提案授業では、単元の始めに「新見南吉の作品のポップを作る」という単元を貫く言語活動を子どもたちに示すとともに、作成に至るまでの学習計画表を提示した。そのことにより子どもたちは、活動の見通しや目的意識をもつことができ、意欲的に学習に取り組む様子が見られた。国語において活動に見通しをもたせることは、子どもたちの意欲につながるものと考ええる。
- ・単元を通して学習の振り返りを繰り返し行い、発表していくことで、友達の考えのよさに気付くようになり、次時への意欲へとつながった。また、教師が児童のつまずきや変容を正確に把握できるようになり、個への支援をきめ細かく行うことができた。メタ認知的振り返りを行っていくことは、児童が自分自身の変容を見たり、教師が変容を把握し、支援を考えたりしていくうえでも有効であると考ええる。

課題

- ・主体的な学びを生み出していくためには活動の見通しをもたせるだけでは不十分であり、教師側としての発問や手立てが必要になってくる。
- ・今日の学習に対しての振り返りだけではなく、「自分はどうだったのか、だから次はこうしたい。」というような振り返りとならなければ、次の学びへの意欲へとつながりにくい。また、学習の最初に前時の振り返りを確認する場面を設けていくことで意欲をつなげることができると考える。

視点2

思考力・表現力を育成する活動の工夫

成果

- ・『ごんぎつね』を通して言語活動に必要な表現の仕方を学び、並行読書（他の新見南吉の作品）で学んだことを活用する流れは、自分たちで表現する文章を考える活動が随所に行われ、思考力・表現力を育成するのに効果的だった。
- ・交流を通し、アドバイスをし合うことで、どのような紹介文を作成すると良かったのかを考えることができ、表現力を高めることができた。

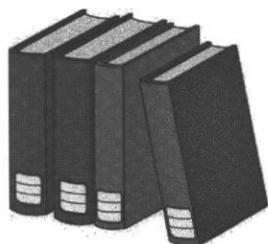
課題

- ・スムーズに活動に向かい思考させるためには、掲示物などを作成して今までの活動の振り返りをさせやすくしたり、導入時に本時の活動につながる振り返りを確認したりすることが必要であった。
- ・「考えたい」「話したい」という意欲へと高めるために、指導する側としてどのような支援方法をとるべきか、手立てを明確にしておくことが必要であった。
- ・交流での聞く意識をより高めるために、自分の考えなのか教科書の文の引用なのかといった、区分を付けるための表現方法を教えることが必要であった。



参考文献リスト

- 小学校学習指導要領 文部科学省
- 中学校学習指導要領 文部科学省
- 初等教育資料 2015年 4月 文部科学省
- 初等教育資料 2015年 5月 文部科学省
- 初等教育資料 2014年 4月 文部科学省
- 単元を貫く言語活動の全てが分かる！
小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド 水戸部修治 著 明治図書
- 算数授業研究 VOL97 筑波大学附属小学校 東洋館出版社
算数研究部
- 秋田県式「授業の達人」10の心得 矢之浦勝之 著 小学館
- 言語活動で展開する！秋田県式学力
UPの授業づくり 矢之浦勝之 著 小学館
- “算数学力・日本一”への挑戦 尾崎 正彦 著 明治図書
- 算数の授業で「メタ認知」を育てよう 重松 敬一 監修 日本文教出版
- メタ認知の概要 奈良教育大学ホームページ



研究協力員

佐 治 慎 吾 (苫前町立古丹別小学校)

松 澤 珠 生 (初山別村立初山別小学校)

大 石 晴 之 (留萌市立北光中学校)

藍 哲 也 (遠別町立遠別中学校)

留萌管内教育研究所

所 長 石 田 正 樹

主任研究員 中 村 弘 樹

研 究 員 豊 崎 東 洋

河 端 寿 幸

伊 原 賢 郎

小 山 俊 一 郎

前 田 朋 恵

片 山 知 郎

野々村 光 史

事 務 員 按 田 由 香



あとがき



今年度は、新たな研究主題を「学ぶ意欲『～たい』を引き出す学習指導の実践的研究」とし、「主体的な学びを生む学習活動」「思考力・表現力を育成する活動の工夫」という2つの視点を設け、理論研修や研究員による提案授業を行い、研究内容を深めてまいりました。

今回、その成果と課題を『研究紀要』第21号としてまとめることができました。

また、紀要発行にあたり、各関係機関にも多大なお力添えをいただきましたことに対しましても、重ねてお礼申しあげます。本書を多くの先生方に読んでいただき、校内研究や個人研修、日常の授業実践においてご活用いただければ幸いです。

来年度は、1年次研究の成果と課題を踏まえた上で、2年次の研究に取り組み、多くの成果が得られるように努力してまいります。今後とも当研究所に対しまして、変わらぬご指導とご協力のほど宜しくお願いいたします。

平成28年3月

研究紀要 第21号

学ぶ意欲「～たい」を引き出す学習指導の実践的研究

発行日 平成28年3月

発行所 留萌管内教育研究所

〒077-0033 留萌市見晴町2丁目27番地

Tel・Fax (0164) 42-2635 (直)

E-mail ruken@educet.plala.or.jp

U R L <http://ruken.hs.plala.or.jp>

発行者 所長 石田 正樹

印刷所 白鷗印刷株式会社

〒077-0044 留萌市錦町2丁目3-20

Tel (0164) 42-1111
